



SSKS 療育ねっとわーく川崎

2009年6月20日発行
No.117 (2800部)
NPO法人
療育ねっとわーく川崎
発行者 江川 文誠
編集者 谷 みどり

こんなとき どうするの

(答え) 障害のある人のための外出ヘルパーは、生活をその人らしく豊かにすることを目的とし、10年ほど前から制度化されました。その後、自立支援法で、行動援護(行動支援が必要な人のための制度)と地域生活支援事業の移動支援・ふれあいガイドに分かれました。この中の、ふれあいガイドでは、1対1ではなく、2対1〜6対1でのグループ対応が認められています。



今月号の目次

- 1 こんなときどうするの.....1
- 2 当事者に聴く(介助者).....2
- 3 明日香のたまご.....3
- 4 ロンドの男性職員ヘルパーさん.....4
- 5 事務局長便り.....5
- 6 厚木市が重度障害者医療費に一部負担を求め見直しを進めています.....6
- 7 みんなの伝言板.....7
- 88

(質問) 高1の男子の親です。わが子は、日曜日に、家ではすることがなく、どこかにでかきたい、といつも言っています。でも、一人で外出させるのは心配です。1対1でサポーターさんと行くというより、同年齢の友達と出かけることを望んでいます。ただ、その子たちにもやはり付き添いが必要です。スイミングなど共通のお友だちが5人いるのですが、みんなで一緒に出かけられませんか。

ます。これは、イベントごとに市に申請すれば、何人かずつグループを作ってお出かけることができる、というものです。ご家族の方で、サポーターさんを見つけて、事業所に申請すれば、5人のグループでハイキングや映画を見に行くなど、みなさんの趣味に合わせた活動ができます。

*この後、質問者の方は、本人・家族・サポーターさんが集まって、月1回の外出をする「きらめきグループ」を作られました。

ふれあいガイド企画型は次の各認められるようになりました。(谷)

今年度から、1ヶ月前の届け出て

号に該当する外出の場合認められます。

(1) 営利を目的とするものではないこと。

(2) 特定の団体への加盟、参加等を前提としていないこと。

(3) 他のサービスや事業、団体の活動又はその一部として行われるものではないこと。

(4) その他、障害児・者の社会生活に不可欠な外出または余暇活動等社会参加のための外出として不適当と認められるものではないこと。

みんなの伝言板

6月のカレンダー



ご感想は e-mail : kouhou@rond.jp までどうぞ
☆編集メンバー谷、山崎健、杉田、遠藤

はいきんぐくらぶずんずん

6月28日(日曜日) 7月はお休みです
○稲城公園〜多摩川沿い
☆多摩川を歩く会です。障害のある方もない方も、みんな楽しく歩いています。サポーター募集中!
代表: 桑原由起子
副代表 渡辺百合子・三浦レイ子
お問合せは Rond・福田まで

放課後ネットかながわ 学習会

主催: 障害児の放課後と豊かな地域生活を保障する神奈川県連絡会(放課後ネットかながわ)
09年6月21日(日)13:30開始(13:00開場)~16:30
参加費 1000円
第一部 放課後活動実践発表
社会福祉法人 大樹 あそびのひろば こかげ(横浜)
社会福祉法人 翔の会 寒川町日中一時支援事業所 つくしんぼ
助言者 田中 祐子氏(まつぼっくり子ども教室所長・全国放課後連事務局長)
第二部
講演会「障害をもつ子ども達の発達を見る目」林 美氏
【会場】 ひらつか市民活動センター
JR平塚駅南口から徒歩2分 JAビルかながわ2階
駐車場 有料駐車場(台数少)
※保育希望者は5月30日までにご連絡ください。保育料として500円かかります。
※参加される方は 人数把握のため 事前にTEL・FAX 045-800-5761までご連絡下さい。

豊かな地域療育を考える連絡会

7月16日(木)予定
9時30分~12時まで
場所 川崎市母子保健センター

問い合わせ先 サポートセンター Rond



発行所 郵便番号一五七〇〇七三 世田谷区砧六二六二一
特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会 定価一〇〇円

マイライフ・カワサキ

☆7月21日(火)
(ボランティア募集)
☆マイライフ・カワサキには、れいんぼう川崎に入所している人も参加します。食事やトイレの介助をしてくださる方を探しています。
代表 八嶋絹代・加山静枝
お問合せは Rond・和田まで

東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター開設記念 市民公開フォーラムのご案内 「教育のバリアフリー、そしてバリアフリーの教育」

【日時】 2009年6月20日(土) 13:30~17:00
【場所】 東京大学 安田講堂(文京区本郷7-3-1)
【主催】 東京大学大学院教育学研究科
こちらより、お申し込みいただけます。
http://www.p.u-tokyo.ac.jp/cbfe/0300/2009/0620_forum.html

【プログラム】

- 基調講演『教育のバリアフリー化が社会を変える』 福島 智 東京大学先端科学技術研究センター教授
- パネルディスカッション 『教育のバリアフリー』 座長: 川本隆史 東京大学大学院教育学研究科教授 白石 さや 同教授

医療的ケアおおぶねっとわーく*神奈川

2009年6月28日(日) 13:00~15:30
神奈川県社会福祉会館 4F会議室
①講話『ケアが街にやってきた』—刊行までとその後 講師 クリエイツかもがわ社長田島英二さん
②講習会『作ってみよう!医療的ケア人形』—医療的ケア人形作製まで 講師 県立こども医療センター重症心身障害児施設生活支援課 保育士吉岡美幸子さん 県立三ツ境養護学校 教諭石井直美さん
参加費 会員:500円 非会員:1,000円
申し込み 次の事務局へ FAXで氏名、連絡先を明記のうえ申し込んで下さい。〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4番地2 県社会福祉会館内 NPO法人フュージョンコムかながわ・県肢体不自由児協会「医療的ケアおおぶねっとわーく*神奈川」
TEL 045-311-8742 FAX 045-324-8985 事務局上原則子

会員・賛助会員募集

(連絡先) 〒214-0014 川崎市多摩区登戸2981 サポートセンター Rond
Tel 044-930-0160 Fax 044-930-0128 e-mail: info@rond.jp <http://www.rond.jp/>
(会費振込先) 郵便振込 00280-2-26842 特定非営利活動法人療育ねっとわーく川崎
■会費・賛助会費の別をお書きください。振込用紙が必要な方はお知らせ下さい。年会費 2000円 賛助会費 一口 1000円

当事者に聴く

「介助者たちは、どう生きていくのか？」

介助者の生き方・働き方を考える集いIN東京

【介助者イベント】

2009年5月23日夜、中野区で「介助者たちは、どう生きていくのか？」（主催・かりん燈、協賛・L C てくてく）というイベントを開催した。私（杉田）もパネリストの一人として参加。当初は20〜30名の小さな会の予定だったが、120名を超える人々が各地から結集。パンフレットはこのように問いかける。《あなたは正規職員を望みますか？登録介助者としてそこそこ生きていきますか？ ケアマネ資格をとって、キャリアアップの道を目指しますか？ 体を痛めたら、仕事どうしますか？ それとも介助の仕事は次の仕事が見つかるまでの腰かけですか。あなたは介助をこれからも続けていきますか？ これから、未曾有の介護社会に突入しようとしています（50年後には65才以上の人口比率が4割強）。障害者や高齢者等、介

助・介護を必要とする人と共に、これからどのように私たちはこの地域社会で働き、生きていっただらいいのでしょうか？》

【介助者たちのバラバラさと沈黙】

会場では様々な意見が自然発火的に飛び交った。まず感じたのは、介助者同士の間には、簡単には埋められない無数の立場の違いがあること。障害種別の違い。障害者介助と高齢者介護の溝。地域差。男女の感覚のずれ。フルタイムとパートタイムの働き方の違い……。労働条件ばかりか、生活条件も大きく違う。

しかも介助者たちは、まだまだ自分の中のリミッター（制限）を外せていない、と痛感した。事実、会場発言の半数は障害当事者のものだった。たとえば身体障害者の介助には「介助者は障害者の手足に徹するべき」という「介助者手足論」の歴史がある。手足論の是非も当日、決定

的な争点の一つとなった。だがそれだけではない。介助者たちの沈黙には何かがある。

しかしこの語りがたさ、沈黙の深さ、バラバラこそが、今後の介助者の労働／生存／家族運動のポイントになるのではないか、とも予感させた。そもそも多くの介助者は介助を「単なる労働」と考えていない。賃金労働／家事労働／ボランティアのいずれでもあり、いずれでもない何か。その先で、「能力があること」を前提にしない働き方や社会を考えたいこと。少なくとも私は、そういう空気を感じた。

【進行中の議論】

ともあれメモリアルなイベントだったと思う。ある人は「ついにパンドラの箱が開いた」と繰り返し述べていた。かりん燈の渡邊琢さんは「障害者運動の歴史と魂を私達も受け継いで、今日のこの場所を、社会

変革の発火点に」と言っていた。

イベント後は中野駅近くの公園で始発電車が動き出すまで延々と夜通し議論が続けたが、それでも足りず、今もML（メーリングリスト）などで飽くことなく議論が続いている。特に女性介助者たちからは、「敷居が高い」「男性の発言ばかり」「大学出の人ばかり」という違和感（議論の前提自体への議論）が噴出している。それについての再反論もある。

私はこの流れが、他人に不満と「要求」ばかり投げける悪癖を断ち切って、様々な個人の積極的な「提案と実行」の場に、しかも多種多様な諸提案が激突し連合していく磁場になることを望むし、自分なりに何かを試みるつもりでいる。社会と同時に自分を変えたい。今後は、色々な場所ですべての場に多様な介助者イベントが生成していくだろう。私も引き続き、自分の現場で手探りで考え続けようと思う。

（杉田俊介）

厚木市が 重度障害者医療費に 一部負担を求めるよう 見直しを進めています

5月26日付の朝日新聞で、厚木市は今年10月から、一部の精神障害者を新たに助成の対象に加える一方で、重度障害者医療に年齢・所得制限を導入することになりました。

これは、昨年、神奈川県が10月から重度障害者医療費助成制度に一部負担金を求める事を決定しましたが、一部を除く県下の市町村は当面、利用者には負担がないよう、独自で対応してきました。

しかし、財政的に厳しいという事

で今回、厚木市が一部負担を求めるよう見直しを進めています。

この事は、神奈川県全域の市町村に与える影響が大きく、各市町村が厚木市に続く動きを誘発しかねないものです。

医療と日常的に切り離せない障害者にとって、負担はとても重く、そのために安心して医療が受けられなくなるようなことがあってはなりません。

これからの障害者と患者の福祉・医療を考える連絡会では、厚木市長要請行動として6月17日（水）午後2時〜3時 厚木市役所第2庁舎4階会議室で話し合う予定です。

なお場所が分からない方のために、午後1時40分に小田急線本厚木駅中央改札口に集合して行きます。参加できる方は集まって下さい。

NPO かわさき障がい者権利擁護センター設立記念講演

6月14日、川崎市民ミュージアムにて「NPO かわさき障がい者権利擁護センター」設立記念式典が行われました。

最初に司会の太田川崎市議会議員から当初予定されていた浅野史郎前宮城県知事の講演が病氣療養による変更について説明がありました。次に、飯塚川崎市議会議員から開会の言葉として、設立にいたる一年半の間の中で「親の会5団体」と司法書士会、社会福祉士会、弁護士の専門家による話し合いの経緯についてお話を頂きました。続いて、並木理事長より設立に際してご協力くださった多くの方へのお礼と、今後も障害者が地域で安心して暮らせるかわさきとなるよう活動を共に進めて行きましようとの挨拶がありました。

来賓としてご出席頂いた曾瀬川崎副市長からは、成年後見人制度の重要性、川崎市の取り組みについてのお話と、お祝いの言葉を頂きました。式典の最後には、役員、来賓の方が一緒になって、くす玉を割り、会場からは大きな拍手で設立を祝いました。

記念講演は弁護士の大石剛一郎さんによる「親亡き後の障害者の権利擁護」でした。実際に障害者の弁護に携わった具体的な事例「宇都宮事件」を元にお話頂きました。

本人が30代半ばの時に育ての親の祖母が死去、窃盗癖を理由に受け入れ福祉施設がなく、精神病院に13年間入院。退院してからは地域でアパート暮らしを始めたが、ヤクザ風の人との間で養子縁組届けがあり、年金はヤクザ風の人が管理し、暴力的言動による生活支配が続いた。自転車窃盗等をくり返し、2004年暴行で逮捕・「自白」・起訴。2件の強盗で「自白」・追起訴。求刑7年の判決言渡し。公判期日に強盗否認、判決延期、真犯人判明。強盗につき無罪の論告となったが、鑑定されずに心身耗弱とされ、暴行有罪で罰金20万円の判決となった。保釈後、成年後見申し立てをし、ヤクザ風養親を刑事告訴し、縁組無効判決が確定した。現在は成年後見人が付いて、支援は容易ではないが福祉サービスを受けつつ地域で暮らしている。大切なことは、本人に必要な支援のネットワークを作ること。成年後見はそのひとつであり、万能ではない。本人申請主義の福祉サービスは差別や虐待を放置することがあり、緊急避難できるシェルターとしての入所施設の役割も重要な役割として期待したい。

地域における支援のネットワークを探る、作る、組み立てる役割として「NPO かわさき障がい者権利擁護センター」の活躍を期待したいと、お話を頂きました。（山崎健一）

療ね事務局便り

次回の事務局会議は、**6月17日(水)**です

療ねサロンを開催します！

第9回定期総会に参加ください。先月のニュースでもお知らせしましたが、6月25日(木) 11時～13時エポック中原(第3会議室)で行います。

今、療育ねっとわーくではどんなことをしているのか、してきたのか、各担当者からの説明と、これから何をしようとしているのか、提案を含め、会員の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

障害のある者が生きていくにはまだまだ、生活しづらい事がたくさんあります。

療育ねっとわーくでは、その中でも、特に必要なところへ支援を届け

たいという気持ちで活動してきました。

そのアンテナ部分として独自に相談事業を続けています。

さまざまな相談がありますが、特に就学前の児童には早期発見、早期療育が求められているにも拘らず、受けられる支援がとて少なく、大事な成長期の多くの時間を母親と過ごしていることが、子供の自立を遅らせ、親同士のつながりも薄く、社会的孤立につながっていることを目にします。

こどもにとって集団の中で過ごすことは社会性を身に付ける重要な機会です。ルールや他人への思いやりが芽生えます。

また、それが自然なことです。リハビリを受けることも重要ですが、それと同じくらい集団活動は重要です。

わたしたちが児童デイサービスや、日中一時支援を増やしてきたのも、こうした背景からです。

また、成人になつての問題のひとつは、在宅で親が面倒見切れなくなれば施設、というあまりにも選択肢がない状況は昔も今も変わりありません。

在宅と施設の間

に、肢体不自由の方のケアホームすら、川崎ではひとつもありません。

こうした状況を少しずつでも変えていきたいと、提案を含め総会を充実したものにしたいと思っています。

是非、多くの方の参加をお持ちします。是非、多くの方の参加をお持ちします。

是非、多くの方の参加をお持ちします。

是非、多くの方の参加をお持ちします。

明日香のたまてばこ



こんにちは。ゴールデンウィークもあつという間に終わり、もう少しで半年が終わってしまいます。本当に嫌ですね。また、この時期は私にとって一番嫌な時期であり、あまり調子が良くありません。緊張が強く、自分でコントロールが効かなくなっています。

気温の上下が激しく、体がついて行かないんですよね。びっくり反射も普段よりきついし、とにかく辛いです。その上に、毎週金曜に行っているプールでも緊張が抜け悔いのです。もちろん、普段の状態が良くないので、こういう状態になるのはある程度分かるのですが、4月頃から新しいヘルパーさんが何回か同行し、5月頃からそのヘルパーさんが一人で行き始めました。私としてはとても嬉しいんですが、この事が緊張が抜けないのに関係があるんですよ。私にねえー。

私にとって新しいヘルパーさんが入ってくれるのは、嬉しい反面、体には慣れるまでもとても負担になってしまふんです。頭のなかで考えている不安や私が教えなきゃという思いが、すべて体に緊張として全てで

しまうのです。昔から訓練の先生には、すべての私の感情がバレバレなんです。「彼ができたなら、隠せないね」と笑いながら言われた事もありません。そのくらい自分の感情に左右されてしまふんです。慣れるというの、人の倍以上時間がかかりました。プールも同行を何度かやりましたが、何度かぐらいいじや到底慣れません。体は負担ですが、これも私の試練？なんですかねえー。頑張ります。

何度か同行を続けても、本当に慣れるまでは時間がかかるのに、新しいヘルパーさんが同行もなく入れられた日には、極度の緊張で私の体は大変な事になっています。同行で入ってもらえば、順番などを分かっても、体への負担もましになります。同行はとても重要な事なのです。

ヘルパー人数は限られているため、同行は大変かも知れませんが、できるだけ新しいヘルパーさんが入る時はして欲しいです。

鈴木明日香

あんしんサポート・・・ちょっと違いました

前号の「こんなとき」でお知らせしたあんしんサポートに、ちょっと間違いがありました。

今年度から、誰でも申請すれば、5時間支給されるということでしたので、てっきり、1度に5時間の利用が可能と思いこんでいました。5月に緊急に利用された方がいらして、事務で請求したところ、エラー！「おかしい」と、役所に問い合わせたら、なんと3時間の設定しかしていないということでした。児童の場合、身体介護は体重とか介護内容に制限があり、1時間の支給すらなかなかできませんね。重度訪問介護は、特例でも15歳以上。せめて、月に1回のあんしんサポートくらい、5時間継続利用ができるといいと思うのですが…。

当事者のみなさんは、どうお考えでしょうか。

編集後記

先月号の発行が遅れました。日々業務の中での編集作業。お詫び致します。ご容赦下さい。今後は一層、色々な方々の力を借り、職員のみならず、療ね会員や地域の皆さんの参加型の誌面にしていければ、と計画しています。ぜひご協力下さい。制度情報などばかりで、記事が堅苦しくなりがちなのも考えもの。運転手さんやヘルパーの皆さんの一言コーナーを散りばめるなど、一層の工夫を凝らしていきます。ご意見があれば、お気軽に編集委員まで。(杉田)

第12回「夏の家」参加者募集

主催団体	実施日	募集人員	場所	参加費用(共通)
療育ねっとわーく	8月2日～4日	20名	川崎市青少年の家 (宮崎台)	二泊三日(全日) 15,000円 一泊二日 8,000円
ハイキングクラブずんずん	8月15日～17日	20名		
川崎「重心守る会」	8月27日～29日	20名		

- ※各開催とも初日は13:00受付開始、最終日は11:00終了です(開催中のイベントについてはは計画中です)。
- ※参加資格◎療育ねっとわーくの会員、又は各主催団体の会員の方◎中学生以上の方で、外泊経験のある方。
- ※外泊経験のないお子さんは環境変化について行けない事も多く、慣れないボランティアさんが戸惑う場合もあり、実施上の安全面から考慮して制限させていただきますので、悪しからず、ご了承ください。
- ※申込者多数の場合は、お断りすることがあります。
- ※ボランティアさんや、スタッフの集まりが悪い時は、募集人員の変更や中止とさせて頂く場合があります。

【申し込み先】サポートセンターロンド TEL044-930-0160 FAX044-930-0128



斉藤健一さん (60代)

—ロンドに入ったのはいつですか。
——昨年11月頃です。
——きっかけは。
——姪っ子の紹介でした。
——どんなお仕事をされていますか。
——ずんずん、まんぼうの送迎などです。もう、楽しいですね。癒しをもらってありがとう、と言いたいです。毎日が楽しみで、休む気にはなれません。感謝ですね。
——ロンドってどんなところですか。
——環境のせいか、皆さん優しいですね。人の悪口も言わないですし。とてもいいです。



杉田利夫さん (60代)

—ロンドに入ったのはいつですか。
——去年の11月末です。
——きっかけは。
——自分の息子から、年も年だしやってみたら、と勧められまして……。
——どんなお仕事をされていますか。
——送迎と、ずんずんのサポートをしています。
——ロンドってどんなところですか。
——最初のうちは、障害のある人に関わるのも初めての経験で、本当に続けていけるのかと思った。でも何回も子どもたちに会っているうちに、サポートが第二の人生のように思えてきました。女性ばかりに囲まれ、自由気ままに、楽しくやっています。



対馬さん (70代)

—ロンドに入ったのはいつですか。
——2002年頃。
——きっかけは。
——ヘルパーの講習会で、男性の必要が言われたことだね。
——どんなお仕事をされていますか。
——送迎、自閉症の子の外出、家事や食事作り。最初はヘルパーの仕事が全然分からずびっくりしたけど、面白いもので段々なじんで、子どもたちもかわいくなっていったね。
——ロンドってどんなところですか。
——この年齢で、最後にこんな仕事に出会えたことに感謝だね。ただ、今のままでいいとは思えないよ。棚上げしている部分があるね。これからは、利用者の将来の生活を考えて支援できるロンドであってほしいね。



大和大介さん (20代)

—ロンドに入ったのはいつですか。
——今年の1月からです。
——きっかけは。
——去年「夏の家」にボランティアで参加して楽しかったのがきっかけでした。
——どんなお仕事をされていますか。
——入浴介護や外出支援、重度訪問介護などを行っています。色々あって楽しかったり大変だったりです。宿泊の仕事もしますが、まるでドラマの中にあるように、色々なことが起こります。
——ロンドってどんなところですか。
——利用者さんとも家族になれたみたいで、大変だけど楽しい仕事です。ヘルパーとの境目もない感じですね。事務所に来た時、職員の人だと思っただけで声をかけたら、「ウーッ！」とお返事されました(笑)。

*** 6月8日にロンド事務所にいらしたヘルパーさんたちに、インタビューしてみました！**

浅野清一さん (40代)

—ロンドに入ったのはいつですか。
——7年前頃です。まだ「ひまわり荘」の頃です。
——きっかけは。
——姉のところにロンドのヘルパーが来ていて、紹介されました。
——どんなお仕事をされていますか。
——ガイドヘルパーとか、入浴です。それと事務所で朝の電話番をしています。
——ロンドってどんなところですか。
——みんなやさしいし、居心地がいいです。働かせて頂けるし。普通会社ってイジメがあるけど、そういうのがないですよ。



有友正隆さん (40代) ギターヘルパー

—ロンドに入ったのはいつですか。
——3年前の夏ですね。
——きっかけは。
——「歌正」の出前ライブで「夏休みを楽しくすごす会」に行った時に、谷さんにかめとられ、いきなり二子タイムケアに連れていかれました。なんてこった！
——どんなお仕事をされていますか。
——主にタイムケア。今はヘルパーや送迎も。ギターで歌ったり、子どもたちと一緒に楽しんでいます。同じ気持ちで同じ感情ですよ。
——ロンドってどんなところですか。
——ユニークなところ。一歩足を踏み入れるとそこは……これ以上は言えません(笑)。

河嶋渉さん (30代)

—ロンドに入ったのはいつですか。
——7年くらい前です。
——きっかけは。
——あるコーディネーターの人がぼくのいとこの整骨院にきたのがきっかけで、紹介されました。
——どんなお仕事をされていますか。
——ずんずん、まんぼう、毎日の通所・通学送迎などを行っています。楽しいのは利用者さんの笑顔を見たとき。最近は、夜お酒を飲んでも朝早く起きることができています。
——ロンドってどんなところですか。
——居心地がいい場所です。一度やめて戻ってきても、温かく受け入れてくれました。



サポートセンターロンドには、現在49人の男性職員ヘルパー・サポーターさんがいます。